

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL.109
2025.5

TOPICS

1

世界の舞台へ！陸上競技部の石本龍一朗さんが 2025年東京デフリンピック日本代表に内定



陸上競技部の石本龍一朗さん(教育学部3年)が、11月に東京で開催される「第25回夏季デフリンピック競技大会」男子400mハードルの日本代表に内定しました。石本さんは、昨年11月の「第21回日本デフ陸上競技選手権大会」で大会新記録となる56秒45を樹立し、5月の日本選手権でも2連覇を達成しました。

内定発表を受けて石本さんは、「これまで育ててくれた両親に対して、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして、デフリンピックの知名度や、聴覚障害に対する理解が今ほど広がっていなかった時代に努力されてきた先輩方への尊敬の気持ちを胸に走りたいです。海外の選手たちと同じ舞台上で競い合えることは、この上ない喜びです」と語りました。

デフリンピックは聴覚障害のあるアスリートのための国際大会で、東京開催は史上初です。全学をあげて、石本さんを応援しましょう！

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id761.html

TOPICS

2

OI-Start「CFP Nexus WG」が発足 — 産学官金の連携でCFPから価値創出へ

本学が事務局を務める「おかやまデジタルイノベーション創出プラットフォーム(OI-Start)」は、5月20日に「CFP Nexus WG(カーボンフットプリント起点の価値創造ワーキンググループ)」を発足し、岡山大学共創イノベーションラボKIBINOVEでキックオフミーティングを開催しました。約60人の企業・研究者・学生・金融機関が参加し、CFPを起点にGX(グリーンTRANSフォーメーション)を推進し、地域企業の競争力強化を目指します。備前発条など3社が、CFPの見える化にとどまらずBtoC展開や消費者行動分析などの実践事例を紹介。今後はAIやIoT活用による算定自動化や異業種連携で持続可能なビジネスモデル共創を進め、地域と共に脱炭素化の実践に取り組みます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14265.html

Pick up!

岡山大学発ベンチャー株式会社ABABAの 代表取締役2人が「Forbes 30 Under 30 Asia 2025」に選出



岡山大学発ベンチャーの株式会社ABABA代表取締役、久保駿貴さん(大学院社会文化科学研究科博士前期課程在籍)と中井達也さんが、米経済誌『Forbes』の「Forbes 30 Under 30 Asia 2025」に選出されました。

同アワードはアジア太平洋地域の30歳未満の若手イノベーター300人を選ぶもので、久保さんと中井さんは「Consumer & Enterprise Technology」部門での選出となりました。久保さんは2020年に新卒向けダイレクトリクルーティングサービス「ABABA」を創業し、約2,300社と年間4万人の就活生が利用するまでに成長しています。

久保さんは「ABABAを応援して下さる岡山大学をはじめとする関係者の皆さまのおかげであり、本当に感謝しております」とコメントしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14263.html

TOPICS

3

革新的新素材開発に向けフランス国立科学研究センター（CNRS）と国際研究プロジェクトに関する覚書を締結

本学は3月31日、フランス国立科学研究センター（CNRS）と国際研究プロジェクト「CHEMISTRY ON CHIRAL CARBON MATERIALS (C3M)」に関する覚書を締結しました。今後5年間、不斉炭素素材を中心に革新的な先端材料の研究開発やセミナー開催、学生指導を共同で進めます。調印式にはCNRSのAlberto BIANCO博士、本学的那須学長らが出席。

那須学長は「CNRSとの革新的な材料研究開発は重要な取り組みです。国際共同研究プロジェクトの今後の発展に期待しています」と述べました。BIANCO博士と仁科教授が研究成果と展望を説明し、本学はこのプロジェクトを契機に国際連携と研究力強化を図っていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14224.html



TOPICS

4

岡山大学病院ゲノム医療総合推進センター・二宮貴一郎助教が「最優秀キュレーター賞」を受賞



岡山大学病院学術研究院医療開発領域ゲノム医療総合推進センターの二宮貴一郎助教（呼吸器・アレルギー内科）が、「がんゲノム知識データベース」の構築に大きく貢献し、国立がん研究センターの令和6年度「最優秀キュレーター賞」を受賞しました。キュレーターは、遺伝子パネル検査で検出された変異の臨床的意義を評価し、治療方針決定に情報提供する専門職です。二宮助教は同職となり3年目で、多数の解析に取り組んだ成果が評価されました。

二宮助教は「がんの遺伝子パネル検査は個々の患者さんに最適な治療法を見つけるための重要な手がかりとなる検査です。この検査の意義が広く知られ、患者さんや主治医の間でより一層活用されることを願っています」と述べています。岡山大学病院は今後もがんゲノム医療の推進に努めます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14251.html

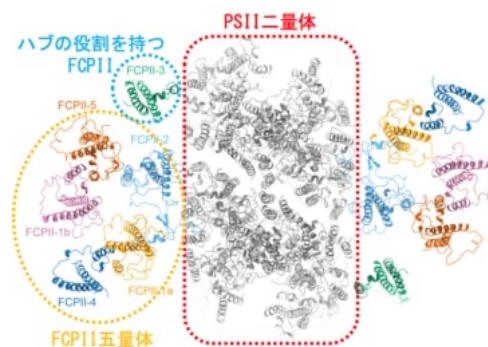
PRESS
RELEASE

海洋の環境維持において重要な役割を担う ハプト藻由来光化学系II-アンテナ超複合体の構造を解明

岡山大学学術研究院先鋭研究領域（異分野基礎科学研究所）のRomain La Rocca 助教（特任）らのグループは、ハプト藻類の代表種 *Chyrostilaroscoffensis* 由来の光化学系II (PSII)-フコキサンチン・クロロフィルc結合タンパク質 (FCPII) 超複合体の構造を2.2Åの高分解能で解明しました。

ハプト藻類は海洋バイオマスの30～50%を生産し、地球の炭素固定の10%や海洋の炭酸カルシウム生成の50%を担う重要な藻類ですが、エネルギー変換メカニズムは未解明でした。

今回の解析で、PSII二量体に12個のFCPIIが結合する構造や、未同定だったサブユニットPsb36の配列を初めて決定し、主要な励起エネルギー移動経路も特定。これにより、ハプト藻のエネルギー伝達機構と進化過程の理解が深まりました。成果は「Nature Communications」に掲載されました。



参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1376.html

